

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 25 年 9 月 12 日 (2013.9.12)

【公開番号】特開 2012-1720 (P2012-1720A)

【公開日】平成 24 年 1 月 5 日 (2012.1.5)

【年通号数】公開・登録公報 2012-001

【出願番号】特願 2011-132753 (P2011-132753)

【国際特許分類】

C 0 8 G 18/80 (2006.01)

C 0 8 G 18/30 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 18/80

C 0 8 G 18/30

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 25 年 8 月 1 日 (2013.8.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

実質的にイソシアナートを含まずかつ実質的にホルムアルデヒドを含まない多コンポーネント組成物であって、

当該多コンポーネント組成物は第 1 コンポーネントとして、平均 2 . 5 以上のカルバマート官能基を有するポリカルバマート、および第 2 コンポーネントとして、ポリアルデヒドまたはそのアセタールもしくはヘミアセタールを含み、

当該多コンポーネント組成物は第 1 および第 2 コンポーネントが一緒にされたときに、反応して 0 ~ 8 0 未満の温度で硬化して架橋したポリウレタンを形成する組成物を形成するのに有効量の誘発剤をさらに含み、さらに、

当該多コンポーネント組成物の全コンポーネントが一緒にされる場合に得られる組成物は 7 . 0 以下の pH を有する、多コンポーネント組成物。

【請求項 2】

ポリアルデヒド、そのアセタールもしくはヘミアセタールが 2 ~ 2 0 個の炭素原子もしくは 2 0 個より多い炭素原子を有し、ただし 2 0 個より多い炭素原子を有するポリアルデヒドは 1 0 個の炭素原子ごとに少なくとも 1 つのアルデヒド基を有する、請求項 1 に記載の多コンポーネント組成物。

【請求項 3】

ポリアルデヒドが (シス, トランス) - 1, 4 - シクロヘキサンジカルボキシアルデヒド、(シス, トランス) - 1, 3 - シクロヘキサンジカルボキシアルデヒドおよびその混合物から選択される、請求項 2 に記載の多コンポーネント組成物。

【請求項 4】

誘発剤がルイス酸または 6 . 0 未満の p K a を有する酸である、請求項 1 に記載の多コンポーネント組成物。

【請求項 5】

ポリカルバマートが 1 種以上のポリオールと非置換カルバミン酸アルキルエステルもしくは尿素との縮合生成物である、請求項 1 に記載の多コンポーネント組成物。

【請求項 6】

ポリオールがアクリル、飽和ポリエステル、アルキド、ポリエーテルまたはポリカルボナートである、請求項 5 に記載の多コンポーネント組成物。

【請求項 7】

第 1 コンポーネントのポリカルバマートが、カルバマート基の当量：ヒドロキシル官能基の当量数の比率 1 : 1 ~ 20 : 1 でカルバマート基およびヒドロキシル基を有する、請求項 5 に記載の多コンポーネント組成物。

【請求項 8】

硬化阻止剤をさらに含む、請求項 1 に記載の多コンポーネント組成物。

【請求項 9】

硬化阻止剤が水、アルコールまたはその混合物から選択される、請求項 8 に記載の多コンポーネント組成物。

【請求項 10】

多コンポーネント組成物から製造された硬化し乾燥した塗膜の可とう性、接着性もしくはその双方を増大させるために、組成物中の固形分の全重量を基準にして 3 ~ 20 重量%の顔料をさらに含む、請求項 1 に記載の多コンポーネント組成物。

【請求項 11】

ポリカルバマート第 1 成分と、ポリアルデヒドまたはそのアセタールもしくはヘミアセタール第 2 成分とを混合して、7.0 以下の pH を有する周囲温度硬化性組成物を形成し、並びに得られた組成物を 0 ~ 80 未満の温度で硬化させることを含み、前記周囲温度硬化性組成物は有効量の誘発剤を有する、架橋したポリウレタンを製造する方法。

【請求項 12】

少なくとも 1 種のジェミナルビス(ウレタン)基を有する請求項 11 に記載の方法により製造された架橋したポリウレタン。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0014

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0014】

好ましくは、本発明の組成物の第 1 コンポーネントにおいては、ポリカルバマートは、例えば、1 種以上のポリオールと非置換カルバミン酸アルキルエステルもしくは尿素との縮合生成物である。好適なポリオールには、例えば、アクリル、飽和ポリエステル、アルキド、ポリエーテル、もしくはポリカルボナートポリオールが挙げられうる。より好ましくは、ポリカルバマートはカルバマート基およびヒドロキシル基を、カルバマート基の当量：ヒドロキシル官能基の当量数の比率 1 : 1 ~ 20 : 1、または好ましくは、5.5 以上 : 4.5、または好ましくは、10 以下 : 1 で有する。この比率は、カルバマート官能基の平均数をポリカルバマートにおけるヒドロキシル官能基の平均数で割ることによって決定されうる。用語「ポリカルバマートにおけるヒドロキシル官能基の平均数」はポリオールから製造されたポリカルバマート中に残っているヒドロキシル基の平均数であり、ポリカルバマートのヒドロキシル滴定によってそのヒドロキシル数を決定し、次いで、ポリオールからのポリカルバマートの製造において反応してカルバマート基を形成したヒドロキシル基の数を計算し、このヒドロキシル数をポリオール中の当初のヒドロキシル基の数と比較することによって決定される数を意味する。